

食味の良い東北地域向け直播用水稲品種「萌えみのり」



研究のねらい

直播栽培は、農業の担い手不足、経営規模拡大及び輸入米との競合などを背景に、省力・低コストで良質・良食味米の生産が可能な技術として期待されている。そこで、耐倒伏性が強く直播栽培において多収で、かつ良食味の東北地域向け品種を育成し、良食味米の省力・低コスト生産を促進する。

成果の内容

- ①「萌えみのり」(水稲農林416号)は、2006年に東北農業研究センターで育成した、“中生の晩”に属する直播用品種である。
- ②稈長は「あきたこまち」、「ひとめぼれ」、「はえぬき」より短く、倒伏に強い。移植栽培、直播栽培のいずれでも「ひとめぼれ」並に食味が良い。
- ③湛水直播栽培(表面条播)では、転び型倒伏が「あきたこまち」、「ひとめぼれ」より少なく、「はえぬき」と同程度で、収量はこれらより約5~20%多収である。
- ④低温苗立ち性は、「ひとめぼれ」などの一般品種と同程度である。



図1 「萌えみのり」の草姿(移植栽培)



図2 籾及び玄米
(左:萌えみのり、右:ひとめぼれ)



図3 直播栽培での草姿
(左:あきたこまち、右:萌えみのり)

成果の利活用

- ①耐倒伏性が強く、直播栽培において多収なため、規模拡大や複合経営への導入が容易である。
- ②いもち病抵抗性が不十分なため、適正施肥、適期防除につとめる。
- ③倒伏に強いが、多肥栽培は食味の低下を招くため、適正な肥培管理につとめる。
- ④栽培適地は、東北地域中南部以南である。